京都大学新聞
学生団体
京都大学新聞社
京都市左京区吉田京大構内
（075）761－2054　直通
（075）753－7531（内線2571）
FAX　（075）761－6095
振替　01020－3－3909
1部100円

どこか遊び心を感じさせる、
そんなお気に入りを見つけたい。
選ぶ楽しさ
わたし流
京都駅前地下街
PORTA
●ショッピング街10:00～20:00
●レストラン街11:00～21:00（モーニング8:00～）
☎（075）365－7520

■今号の紙面■
一面　アジア・アフリカ地域研究科
二面　映画評『ルーペ　瀬川順一の眼』

独立大学院構想

二専攻七講座、概算要求へ

開発先行からの脱却

アジア・アフリカ地域研究研究科

東南アジアやアフリカの社会・文化・生態の理解と研究を目的とした「アジア・アフリカ地域研究研究科」の設立計画が来年度の予算獲得を睨んだ概算要求の中に組み込まれることとなった。

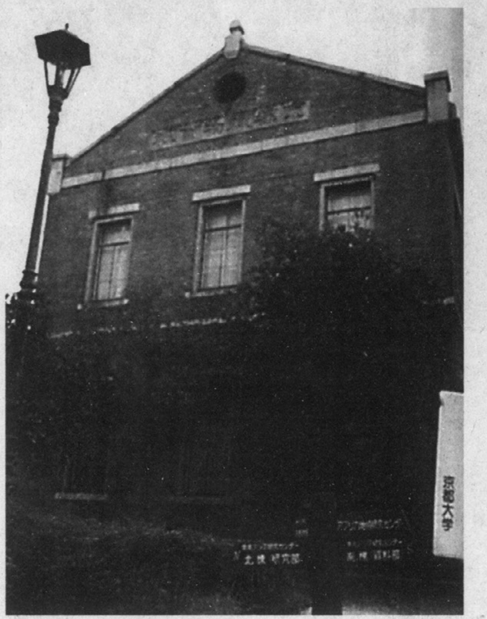
このアジア・アフリカ地域研究研究科は、京都大学将来構想検討委員会（井村裕夫委員長）が九三年の五月に出した報告（下記事参照）の中に表記した四つの独立研究科の一つ。この構想に基づき、現在実現しているものとして、九六年四月に設立されたエネルギー科学研究科がある。

アジア・アフリカ地域研究研究科は、二専攻（東南アジア地域研究科、アフリカ地域研究科）、七講座（うち二講座は協力講座）から構成される。大きな特色としては、学生定員二十七名（うち協力講座の定員が四名）に対して教官数が基幹講座だけで二十九名と、学生に対する教官の比率が学内でも一、二を争うほどの高さになること。五年一貫制を原則に密度の高い教育を行うことを目標にしていること。教官定員の約三分の二に自然系の教官をあて、社会・文化・生態を大きな軸に総合的な地域の理解を目的とすることなどが挙げられる。

東南アジア地域研究科は、東南アジア研究センターと教育・研究の両面で相互に交流を行うなど協力体制をきずく。アフリカ地域研究科は、現在の人間・環境学研究科アフリカ地域研究専攻から三講座が移行されて構成されることになる予定。

東南アジア研究センター所長の坪内良博教授は、実際に計画が実現されるかは確実ではないと断った上で、「現在地域研究を通した人材の育成は、社会から非常に要求度が強くなっている。従来の国際協力は技術援助のための専門家派遣という形を中心に行われていたが、（国際協力といえば）インフラ整備をしていればよかった時代は終結を迎えた。開発先行型の国際協力によって、先進国のエゴを押しつけるなど、国はいろいろな失敗をしてきたが、今後は地域の特性を理解することを第一義的目的にし、それをどのように活かしていくかということが課題である」と述べた。

従来の政策経済を基盤とした人材養成からの脱却。難度の高い課題であるが、新しい地域研究の枠組みの中でどのように実現していけるのか期待したい。


▲東南アジア研究センター
アジア・アフリカ地域研究研究科とは、教育・研究の両面で協力体制をとるということだ

解説

九三年報告

再編の基本構想

八七年の大学審議会設置、九一年の大学設置基準の大綱化についての答申以降、いわゆる「大学改革」の動向は全国の大学で活発になっていった。

京都大学で教養部が廃止され総合人間学部が誕生した九三年には、井村裕夫総長を委員長に将来構想検討委員会が発足し、京都大学再編の全体像について基本方針を六月の報告の中で示している。今回、概算要求が出されたアジア・アフリカ地域研究研究科は、この報告に含まれる四つの独立大学院構想の一つである。

この報告には、現在ほとんどの学部で完了・進行中である大学院重点化の必要性や、第三キャンパス構が打ち出されている。独立大学院構想の欄では今回の地域研究研究科、昨年発足したエネルギー科学研究科の他に、生物・生命科学研究科と多元価値総合政策研究科の基本構想が示されている。

これらの「得意分野」における専門研究機関設置は、今後、京大としての独自性を打ち出す意味でも重要な意味を持つため、アジア・アフリカ地域研究研究科は概算要求段階といえども、設立の可能性は非常に高いと見られている。

複眼時評

虚構と現実

実際の殺人事件と探偵小説の乖離

——空転する動機を探る作業

大澤真幸

六月の末日から七月の最初の十日間ほど、少しばかり体調を崩し、熱の乱高下に苦しめられていた。この間、文章を書くことはもちろんのこと、込み入った文章を読むこともできなかったので、テレビを見ることとマンガを読むことにときを費やした。ちょうど、神戸市須磨区の小学生殺害事件の容疑者として、十四歳の少年が逮捕された直後であったため、テレビでは、「酒鬼薔薇聖斗」と自称していたと推定されているこの少年のことばかり論じられていた。主な主題は犯行の動機の探求にあり、この間の論調は、学校（あるいは学校制度）への復讐にこそ、動機があったのではないか、という推定に傾いていた。他方、読んだマンガは、たまたま手元にあった『金田一少年の事件簿』である。私は無意識の内に、神戸の事件の報道やワイドショーと『事件簿』とを比較していたようだ。そうしているうちに、ある奇妙な感覚が襲ってくるのを禁じえなかった。

神戸の事件は、被害者の首を切断し、陵辱した上で校門の前に晒すという、類例のない残酷で猟奇的な殺人事件である。他方『事件簿』には、これに匹敵する猟奇的な殺人事件が、次々と描かれる。両者の対照がきづかせることは、ミステリー（虚構）と現実の間の伝統的な関係が、いつのまにか、まったく逆転してしまっていた、ということである。

探偵小説（ミステリー）のおもしろさは、素朴に言えば、犯人が使った超人的なトリックの解明と犯人を犯行へと駆り立てた動機の解明の二点にあるだろう。前者が論理の快楽を、後者が人間的な物語を読み取る快楽を与える。探偵小説の中では、必ず、殺人事件が起きなくてはならない。だが、我々は皆、殺人事件にそうざらには出会わないことをよく知っている。殺人事件というめったに起こらない出来事に現実性を与えるために、作者は、犯人に、犯行を決意させるにたる深く重い人間的な動機を与えようとする。だが、他方、探偵小説を文学の他のジャンルから隔て、探偵小説の存在理由ともなる特徴は、論理の快楽の方にこそある。そのため、作者は、技巧の粋を尽くした犯罪を編み出さなくてはならない。だが、ここに探偵小説のジレンマがある。犯罪が技巧的なものになればなるほど、それはとうていありそうもないものとなり、現実の成立平面から遊離していってしまうのだ。この遊離を補償し、小説をあらためて現実の成立平面に着地させるためにも、作者は、しっかりした動機を犯罪者に与えなくてはならない。だが、ほとんどの場合、これには成功しない。かくも技巧的な犯罪を敢えて決行させる動機としては、たいていの動機はあまりに浅薄であり、現実性に乏しい、との感を、ほとんどの探偵小説は、否応なしに与えるのだ。要するに、現実に比して、虚構の側に動機が足りない、という印象が残るのだ。

さて、『事件簿』も、探偵小説のパターンに従って、常に、一連の展開の結末部で、金田一が、犯罪のトリックと犯人の動機を暴いてみせる。信じがたいほど猟奇的な殺人事件が起こっているのだから、よほど深い動機を設定しなくては、物語に現実性と説得力を与えることはできない。おそらく作者はそう考えている。そこで、実際、非常に深い動機が、まさに「積年の大怨」と呼ぶにふさわしいような、幼児期以来鬱積し、深く潜行してきた動機が、金田一少年によって明らかにされるのだ。

ところで、テレビでも、まさに逮捕された少年の犯行動機が、つまり「積年の大怨」が、暴かれようとしている。大怨は、学校（制度）へと向けられていた、というわけだ。だが、動機をこのような図式の上に設定した上で、その内実を深く抉りだそうとすればするほど、その説明はどんどん空転してしまう。なぜか？　私の直感からすると、学校（制度）が、犯罪が生じるための不可欠なコンテキストであったことは否定できない。だが他方で、少年自身の視点に定位した場合には、学校や教師に怨みがあったがゆえに人を殺した、という「物語」は、まったく瑣末なものに過ぎない、ということも明らかなように思われる。そもそも、学校への怨みが問題ならば、なぜ、学校関係者が殺されず、まったく無関係な別の学校の児童が殺されなくてはならなかったのか。

動機を解明しようとする試みが空転していくうちに、やがて人は、次のことに気づかされるはずだ。これほどの猟奇的な殺人事件には、そもそも、（通常の意味での）動機などというものはありえない、ということに。どんな深い動機も、このような凄惨な殺人の残酷さや猟奇性に釣り合うことはできない。逆に言えば、何であれ積極的な動機があれば、人はこんなにも酷く、無意味な殺人を犯すことはできない。動機の空虚のみが、この種の殺人を現実的なものとして裏打ちすることを許すのである。

翻って『事件簿』を眺めるならば、金田一少年は、犯行の背後に、積極的な動機を見出してしまう。今や、この動機が、犯行の猟奇性に追い着こうとして、深みや重みを負荷されればされるほど、金田一少年の説明は嘘っぽく、現実性を欠いていくのを感じざるをえなくなる。積極的な動機があれば、——突発的な興奮に起因する暴走を別にすれば——、犯行の残酷さの程度は、まさにその動機と釣り合ってしまった水準で停止してしまうはずだ。『事件簿』もまた、伝統的なミステリーと同様に、現実の成立平面から遊離している。しかし、今度は、その理由は、伝統的なケースと全く逆である。動機が現実に比して不足しているというのではなく、今や、動機があまりに多すぎるとの印象を与えるのだ。かつて、ミステリーを現実に繋ぎ止める役割を果たしていた、その当の要素が、ミステリーを現実から遊離させる原因となっているのである。

以上のような考察を、さらに前に進めてみることもできる。つまり、ミステリーの方も、実は、前々から、ときに現実は人間的な動機の空虚の方にこそある、ということに無意識の内に気づいていながら、このことを意識的な自覚にまでもたらすことができなかったのではないか、こんなふうに考えることも可能なのだ。

私がこう主張する根拠は、今度は、「動機」の側ではなく、「トリック」の側にこそある。それは、「童謡殺人」と呼ばれる、ミステリーに頻用されてきたパターンと関係がある。童謡殺人とは、マザーグースの歌詞とか、村の伝説の筋に従って、次々と殺人が行われていく、というやつである。童謡殺人は、典型的には二つのやり方で説明される。一つは、殺人者が狂気であ

（二面へ続く）

Information

劇団その1　大阪夏の陣「夕暮れ少年」
日時：八月二十九日（金）十九時から、三十日（土）十五時から・十九時から、三十一日（日）十三時から・十七時から（受付開始は一時間前から、開場は三十分前から）／料金：前売り千円、当日千三百円／会場：大阪　扇町ミュージアムスクエア／問い合わせ：劇団その1（TEL〇七五－七二三－九一一五）

「戦争と女性への暴力」国際会議公開シンポジウム
日時：十一月三日（月）九時三十分から十六時三十分／会場：全電通ホール（お茶の水駅聖橋口下車二分）／参加費：千円／主催：「戦争と女性への暴力」国際会議実行委員会（日本）／協賛：神奈川県人権センター／問い合わせ：TEL〇三－三二〇三－七三三三

ARS VITALIS～イッセー尾形Presentsアルス・ヴィタリス／九月二十二日・二十三日—大阪近鉄アート館、二十二日は十九時開演・二十三日は十六時開演、料金四千円／九月二十六日—関西ドイツ文化センター（京都）ホール、十九時会演、料金四千円／その他東京・神戸でも公演／問い合わせ：原宿BoxOFFiCE（〇三－三四〇五－一二三三三）

SMI EDI エディカラー COLOR 2.1
京都大学新聞は住友金属工業の
EDIcolor2.1で製作されています。

生協ベストセラー

西部生協ルネ調べ　97年7月1日～7月31日

順位	書名	著者	出版社	冊数
1	原初的コミュニケーションの諸相	鯨岡峻	ミネルヴァ書房	185冊
2	民法	内田貴	東京大学出版会	178冊
3	ローマ人の物語	塩野七生	新潮社	113冊
4	景観から歴史を読む		NHK出版	92冊
5	マックス・ウェーバー入門	山之内靖	岩波書店	63冊
6	複雑系がひらく世界	合原一幸	日経サイエンス社	61冊
7	トーマスクック・ヨーロッパ鉄道時刻	Thomas Cook Group Lt	ダイアモンド・ビッグ	60冊
7	子どもの虐待	森田ゆみ	岩波書店	60冊
9	受験ジャーナル		実務教育出版	59冊
10	学問の鉄人	河合塾	宝島社	56冊

晴耕雨眠

もうすぐ夏休みも終わり試験が始まろうとしている。奨学金をもらっている僕は、試験に追われる時期である。

でも奨学金といっても借金であり、返さなければならないのだ。大学を出たあとも、奨学金返済に幾分かの労働時間を割かなければならない。大学を出ても奨学金に縛られるのか。

今日も、噂に聞く「激励の手紙」が送られて来やしまいかと心配しながら・・・。

（晴耕雨眠の眠）

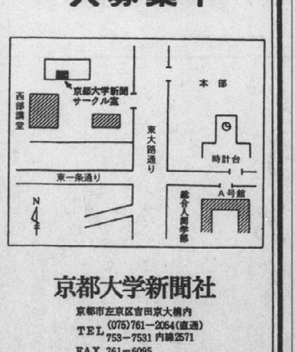
こくばん

[illegible]

（貴）

京都大学100周年記念出版　（ビデオ・CD・本：3部作）
京都大学の百年
絶賛発売中
●発刊記念特価　20,500円（税、送料込）
●椎名の言葉
[illegible]
森　毅　京都大学名誉教授
ビデオで綴る京大百年の秘話
ドキュメント歴史映像
歴代総長が語る京大精神
愛蔵版　絶賛発売中！
開学百年にして初めて実現　ビデオ・CD・ブック
京都大学の100年を全て網羅した画期的多角的三部作
見る・聴く・読む　京大の歴史
CD「我が青春の京大」●収録曲（14曲）学歌・学生歌・応援歌・寮歌・三高の歌
VIDEO「京都大学の百年」60分
●京大の歴史を映像化
●歴史的証言・エピソード多数
●京大100年新たなる提言
本「京都大学の精神」A4・150p
●歴代総長物語　●図録建築史
●京大の歌（学歌・学生歌・応援歌の歴史）
●略年史　●メッセージ集
パソコン通信「KYO・U・NET」4月掲載開始
100人の合唱団　応援団　ソリストによる母校の歌
●お申込み・お問い合わせ
（株）紫翠会出版［京大会館内］
TEL.751-2561
FAX.751-6922

新入社員
大募集中



京都大学新聞社
京都市左京区吉田京大構内
TEL (075)761－2054（直通）
753－7531 内線2571
FAX 761－6095

関西文學
月刊同人雑誌　毎月8日発売
定価700円（送料78円）
編集・発行／関西文学の会　発売／株式会社関西書院
広く才能の糾合を目指し
活動の主体たる同人・会員への
加名・入会を期待しています
見本誌と入会案内送呈（要80円切手8枚）
購読のみの場合は年額9,312円（送料共）
関西文學賞募集中
文芸評論／詩／小説／随筆・エッセイ
各部門締切り一律毎年5月末日消印有効
●応募要領、賞金、発表などは本誌掲載
毎号の「関西文学」誌の目次裏面に掲載
織田作之助賞募集中
主催／大阪文学振興会
小説（ジャンルを問わず）50枚以上100枚まで
締切り　毎年6月末日消印有効
●応募要領などお問合せは「織田作之助賞」係
大阪市生野区林寺2－20－1
☎（06）714－5946／FAX（06）714－2023
郵便振替／大阪 00950－1－24838

ジョセフ・ニーダム著
東畑精一・薮内清 監訳
中国の科学と文明
全11巻
西欧的文明観に
パラダイム・ショックを与えた
壮大なる書
①巻 序篇
②巻 思想史（上）
③巻 思想史（下）
④巻 数学
⑤巻 天の科学
⑥巻 地の科学
⑦巻 物理学
⑧巻 機械工学（上）
⑨巻 機械工学（下）
⑩巻 土木工学
⑪巻 航海技術
世界的名著の日本語訳
■現在①～⑧巻まで刊行
■菊版・上製・平均550ページ
■定価19800円～
新思索社
東京都新宿区大京町25－3－705（〒160）
☎03－3226－0408　振替00190－2－577814

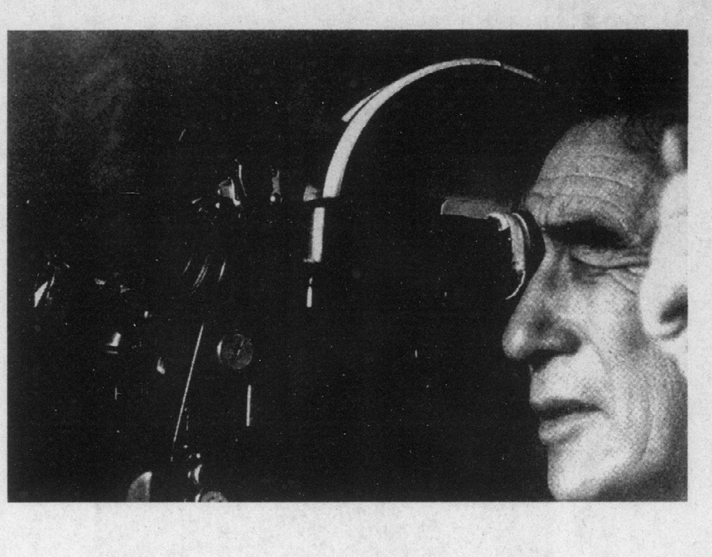
映評

撮られなかったものの歴史

～『ルーペ　カメラマン瀬川順一の眼』をめぐって

藤井　仁子
（人間・環境学研究科修士一回生）

それでもキャメラマンは、いないけどいるんだ



瀬川順一氏

『ルーペ　カメラマン瀬川順一の眼』は京都朝日シネマにおいて上映された（七月五—七、十五—十八日）

「ルーペ論争」——撮ることそのものの倫理

「記録映画作家」亀井文夫の演出作『戦ふ兵隊』（一九三九年）のことは、国策映画を装った「反戦映画」としてすでに伝説化している。中国戦線における日本兵たちの疲弊しきった様子をあからさまにとらえたこの映画は、当然のように上映禁止となり、その後亀井文夫自身が治安維持法によって逮捕・投獄された唯一の映画作家となったことで、伝説はいっそう強固なものとなる。

この『戦ふ兵隊』の撮影中、演出家亀井文夫とキャメラマン三木茂との間に衝突があったことも比較的知られている事実である。しかし、のちに「ルーペ論争」と呼ばれるこの衝突が、実際いかなる出来事に端を発するものであったかとなると知る者は少ないにちがいない。

このたび京都でも公開された『ルーペ　カメラマン瀬川順一の眼』（伊勢真一演出、九六年）は、その経緯を明らかにしてくれる貴重なドキュメンタリーである。瀬川順一（一九一四—九五）は、まず『銀嶺の果て』（谷口千吉監督、四七年）などの劇映画の撮影監督として評価されたのち、ドキュメンタリーに活躍の場をうつした。その瀬川順一は、若き日に三木茂の助手として『戦ふ兵隊』の撮影に参加し、件の「ルーペ論争」をつぶさに目撃した人物でもあるのだ。

軍用トラックで中国大陸を移動していたあるとき、田で稲を刈る中国人の子供たちを見つけた亀井文夫は、運転手に車を停めるよう命ずる。スタッフは急いで撮影の準備にとりかかるが、カーキ色の軍服のような服装をした日本人が、これまで見たこともない奇妙な機械を自分たちに向けながら何やらわめいているのを目にした子供たちは、身の危険を感じて一目散に逃げだそうとする。これを見た亀井は、せっかく見つけた被写体に逃げられてなるものかと後を追い、ついに年長の少年を捕らえることに成功する。おびえる少年の顔をキャメラのほうに向けながら、亀井は三木茂に早く撮れと指示を出す。だがこの出来事にすっかり動転してしまった三木は、どうしてもキャメラを回すことができない。どうした、早く撮れと執拗に命じつづける亀井、恐怖と苦痛にひきつる中国人少年の顔。そして三木はついにキャメラを回せずに終わる。

論争がはじまったのはその夜のことであった。饒舌に三木のことを非難しつづける亀井に対し、三木の方は「亀井くん、きみはエゴイストだ」とくり返すばかりであったという。論争は尾をひき、のちに亀井はある文章の中で、「キャメラマンはルーペからしかものを見ない。目隠しされた馬のようなものだ」と述べるにいたる。

若き瀬川順一は、このときの三木の態度をずいぶん歯がゆく感じたらしい。なぜ撮らないのだ、と。しかし瀬川は、その後この一件に拘泥しつづけることになる。自らもまた一人のキャメラマンとして独立し、この出来事を自分の問題として引き受けざるをえなくなるのだ。そのときこの論争は、撮影隊内部における決定権の所在をめぐるものであるのみならず、撮ること自体の倫理をめぐるものとなる。

三木茂は「臆病な」人だったという。銃声を聴くたびにガタガタ震える三木のことを、若き瀬川はひそかに嗤いもした。そんな三木であるから、あの中国人少年のことも撮らなかったのではなく「撮れなかった」のであろう。撮れないものは撮れない——「ルーペ論争」において、三木茂はそれを自らの倫理的選択としたのだ。

老いた瀬川順一は『ルーペ』の中で語る。思えばあの時代、「臆病」であることには大変な勇気が必要であったはずだ、と。

亀井文夫の選択

ここで亀井文夫のために急いで言い添えておくべきであろう。亀井がおびえる中国人少年の顔をとらえたショットを是非とも必要としたのは、それを編集の素材として活用するためであった。すなわち編集によってしかるべき位置に配されたとき、そのショットは日本軍に侵略された中国民衆の苦しみを表現することになるのだ。

こうした方法は、今日われわれが考えるドキュメンタリー映画とは相容れぬものであるかもしれない。だがこれは、亀井文夫の個人的な資質の問題というよりも、歴史的な問題というべきである。なにしろこの種の戦争記録映画で演出家が撮影に同行したのは、『戦ふ兵隊』が初めてのことだったのだ。それまでの「演出家」の仕事といえば、事前に綿密な撮影プランを立て、キャメラマンが現地で撮影してきたフィルムを編集し、再構成することのみだったのである。それ以前の亀井文夫の「演出作」同様、『戦ふ兵隊』にも「やらせ」が多数存在するが、それは亀井文夫に固有の特徴というよりも、歴史的にとらえられるべき問題だといえよう。

逃げていく中国人の子供たちを見て、亀井文夫もまた動転したにちがいない。それは演出家の事前の意図などというものが、絶えず更新される現在を前にして一挙に無力化される瞬間であったはずだ。亀井はこのときそれを初めて体験した。そして、現在を事前の意図のほうへと力ずくで引き寄せ、馴致する途をとっさに選んだのである。

亀井の選択も、それはそれで倫理的なものであったのかもしれない。のちに亀井は書いている。被弾した兵士を前になすべきなのは、「繃帯を巻いてやることではなくて、じっと観察し、キャメラを向ける」ことである、と。

くり返すが、ここには多分に歴史的な問題がふくまれている。その後の日本のドキュメンタリー映画の展開について詳述する余裕はとてもないが、撮ることを通じて自身もまた変容してゆく作家として、たとえば土本典昭や小川紳介が登場してくることになるだろう。

「私達にとって＜撮る＞という行為は、逆に私達自身の生き方を問われることでもあった。＜撮りたい＞＜撮ってもよい＞という二つの関係が創られるまで私達は決してカメラをまわさなかった」（『日本解放戦線・三里塚』［小川紳介監督、七〇年］公開当時の小川プロダクションによる文章から）。

もはや「作家」個人の署名すら欠いたこの証言を、先ほどの亀井文夫の文章と比較すること。

撮るという残酷。ルーペを越える想像力

撮ることは残酷である。それは選別と排除の原理によって、ある特定の存在や事物のみを対象化し、不特定多数の無遠慮な視線にさらすことだからである。

写真術が発明されて間もないころ、写真に撮られると魂が抜かれてしまうのではないかという恐怖を、少なからぬ人間が共有していたという事実はよく知られている。やはり撮ることは、対象化された存在や事物から何ほどかを奪い去ることなのであろう（実際、映画の歴史は搾取exploitationの歴史でもある）。映画史に、『殺人カメラ』（ロベルト・ロッセリーニ監督、四八年）や『血を吸うカメラ』（マイケル・パウエル監督、六〇年）のような映画が存在するのは偶然ではない。

そして今ここに、戦争という極限的な残酷さの中で撮ることの残酷さと向きあい、その体験を自らの倫理的問題として引き受けながら生き、かつ死んでいった一人のキャメラマンについてのドキュメンタリー映画がつくられた。

撮られたものの歴史があるように、撮られなかったものの歴史もまた存在する。宇宙が無限であるのなら、撮られなかったものもまた無限に存在するのであろう。恐怖に凍りついた中国人少年の顔も、そのひとつにすぎない。

撮るばかりで自らは撮られることのなかった瀬川順一も、並の俳優などとてもかなわぬそのすばらしい顔で語っていたはずだ。誰もキャメラマンのことなど気にもかけないが、それでもキャメラマンは「いないけどいるんだ」と。

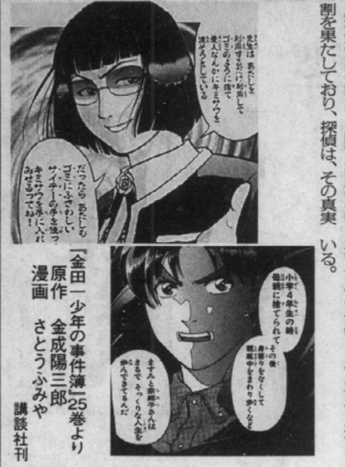
ちょうど彼が好きだったという、『月齢十日の月』のように。

ここに彼は偶々撮られ、その映画が偶々公開され、幾人かの観客によって偶々見られ、偶々その一人であったわたしが偶々いくつかの言葉を書きつけ、それが偶々本紙に掲載され、偶々幾人かの読者の目にふれ、そしてあなたは今、偶々これを読み終えようとしている。

◆主要参考文献
亀井文夫『たたかう映画　ドキュメンタリストの昭和史』（岩波新書）
シグロ編『ドキュメンタリー映画の現場　土本典昭フィルモグラフィから』（現代書館）

（一面より）

るとされる場合であり、他の一つは、——たとえば「ABC殺人事件」などもそうだが——童謡が真の動機を隠蔽するために利用されているとされる場合である。いずれの場合も、童謡にそった一連の殺人は、人間的な真実（狂気や真の動機）を隠す遮蔽幕の役割を果たしており、探偵は、その真実に到達するために、遮蔽膜である童謡殺人という外観を捨て去らなくてはならない。『事件簿』においても、そこに描かれるほとんどすべての殺人事件が、童謡殺人である。そして、『事件簿』では、童謡はいつも、犯人によって、真の動機を人々に悟らせないための偽装として利用されている。


先生は　あたしを
利用するだけ利用して
ゴミのように捨て
愛人なんかにキミサワを
渡そうとしている
だったら　あたしも
ゴミにふさわしい
サイテーの手を使って
キミサワを手に入れて
みせるってね！
小学4年生の時
母親に捨てられて
その後
身寄りをなくして
親戚中をまわり歩くなど
ますみと奈緒子さんは
まるで　そっくりな人生を
歩んできてるんだ

『金田一少年の事件簿』25巻より
原作　金成陽三郎
漫画　さとうふみや
講談社刊

ミステリーでは描けなかった現実の現実的な童謡殺人

繰り返せば、ミステリーにおいては、人間的な真実に到達するためには、殺人が童謡の線にそって連続しているという外観は還元され、棄却されなくてはならない。このように、童謡殺人は、真実に到達するための捨て石であり、障害なのだ。が、しかし、『事件簿』の中でも、あるいはミステリーの一般の中でも、童謡殺人があまりに繰り返し、繰り返し描かれているのを見ると、読者はやがて、転倒した感覚を得るようになる。確かに、個々の小説に関していえば、描こうとしていることの焦点は、童謡殺人という表面的な現象ではなく、その背後にある、人間的な真実にある。だが、ミステリーを集合的に眺めた場合には、本当は、ミステリーは、人間的な真実よりも、童謡殺人そのものを描きたかったのではないか、そのような印象が生じてくるのだ。言い換えれば、集合としてのミステリーは、いかなる狂気もなく、またいかなる真の動機を隠し持つこともなく、冷静な正気の中で童謡殺人を敢行し、それを快楽とするような殺人を、できることならば描きたかったのではないか。

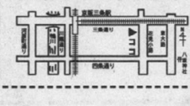
だが、結局、ミステリーは、こうした潜在的な欲望に忠実になることはできなかった。そんな殺人事件は、まったく現実性に乏しいように見えるからである。

ところで、神戸の事件の容疑者の少年が、次々と人間に危害を加え、その残虐性の水準を昂進させながら、自らが危害を与えてきた人間に一人ずつ番号を付してきた、という報道が正しいとすれば、これは、まさに童謡殺人と言わなくてはなるまい。ある形式化された（あるいは儀式化された）筋にそって、殺人が順次行われていくのだから。だが、ここでは、童謡殺人という遮蔽幕を取り除いてみても、より深い人間的な真実（狂気や真の動機）などはない。遮蔽幕が、すでに真実だからである。

そうすると、事態はこんなふうに見えてくる。ミステリーが潜在的に欲望しておりながら、現実への配慮の故に逡巡して、描き切れなかったことを、逆に現実の方が——ミステリーを追い越して——率先して実現してしまった、という具合に。そして、今や、ミステリーのおどろおどろしい虚構性の核でもあった童謡殺人こそが、現実がまさに現実的であることの証となっているのだ。

（おおさわまさち氏は人間・環境学研究科助教授）

コース＋プラス1000円で飲み放題!!
全室個室
無料カラオケのある　京阪三条店（ケイハンサンジョウ）
京阪三条駅東へ200m南へ10m
☎541−0900



すき焼き食べ放題コース　2,800円
（特選牛肉・地鶏・野菜盛合・うどん・ごはん・一品盛合・デザート付）
得々宴会コース　2,800円より
味で勝負の
ちゃんこ恵那櫻（えなざくら）

入所日…毎土曜日
低料金で入所
スピーディに卒業
—卒業生の事故率は極めて低く学科合格率は高位を誇っています—
−One of the most traditional in City!−
普通車科技能コース
◎随時制…ご都合の良い時間を選べます
◎速成科…「合宿と同じ二十二日間で終了」を目標に一日二時限、ご都合の良い時間で
◎定時制…一日一時限、ご都合の良い時間を優先確保します
二輪車科技能コース
◎随時制…ご都合の良い時間を選べます
お申し込みは生協プレイガイド
京都大学よりバス送迎15分
KOETSU DRIVER'S & RIDER'S SCHOOL
普通 二輪 光悦自動車教習所
親切、丁寧
確実な指導が
人気のマト！
まっさらなハートが走りだす
〒603 京都市北区大宮玄琢（げんたく）南町25　電話075-493-0101　千本北大路上るスグ

地球・自然・人間
を見つめる
情報ステーション
あーす書房
10坪の中に未来がある
京都市左京区田中門前町96番地の2
TEL(075)721-3619
FAX(075)723-7004

HOW TO GET THE CHEAPEST AIR TICKET
学会等に。正確・信頼の
KRK TRAVEL
㈱関西旅行研究会
京都市左京区吉田牛の宮町９
9 YOSHIDA-USHINOMIYA-CHO SAKYO-KU KYOTO 606
ＴＥＬ075−751−1513(代)

今出川通
百万遍
関西旅行研究会
日仏会館
日伊会館
京都大学
東一条
交番
本屋
京大教養部
京大医学部